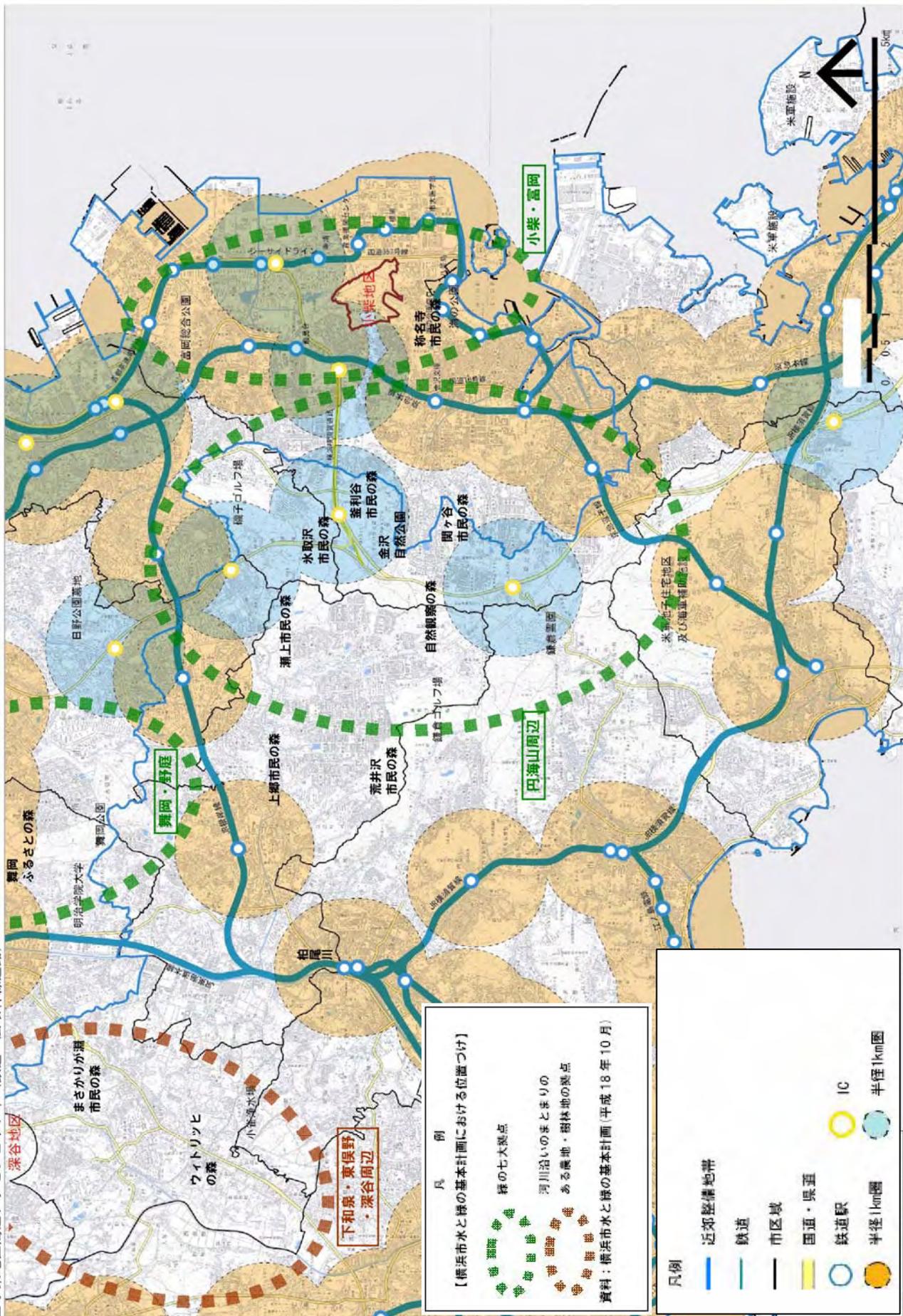
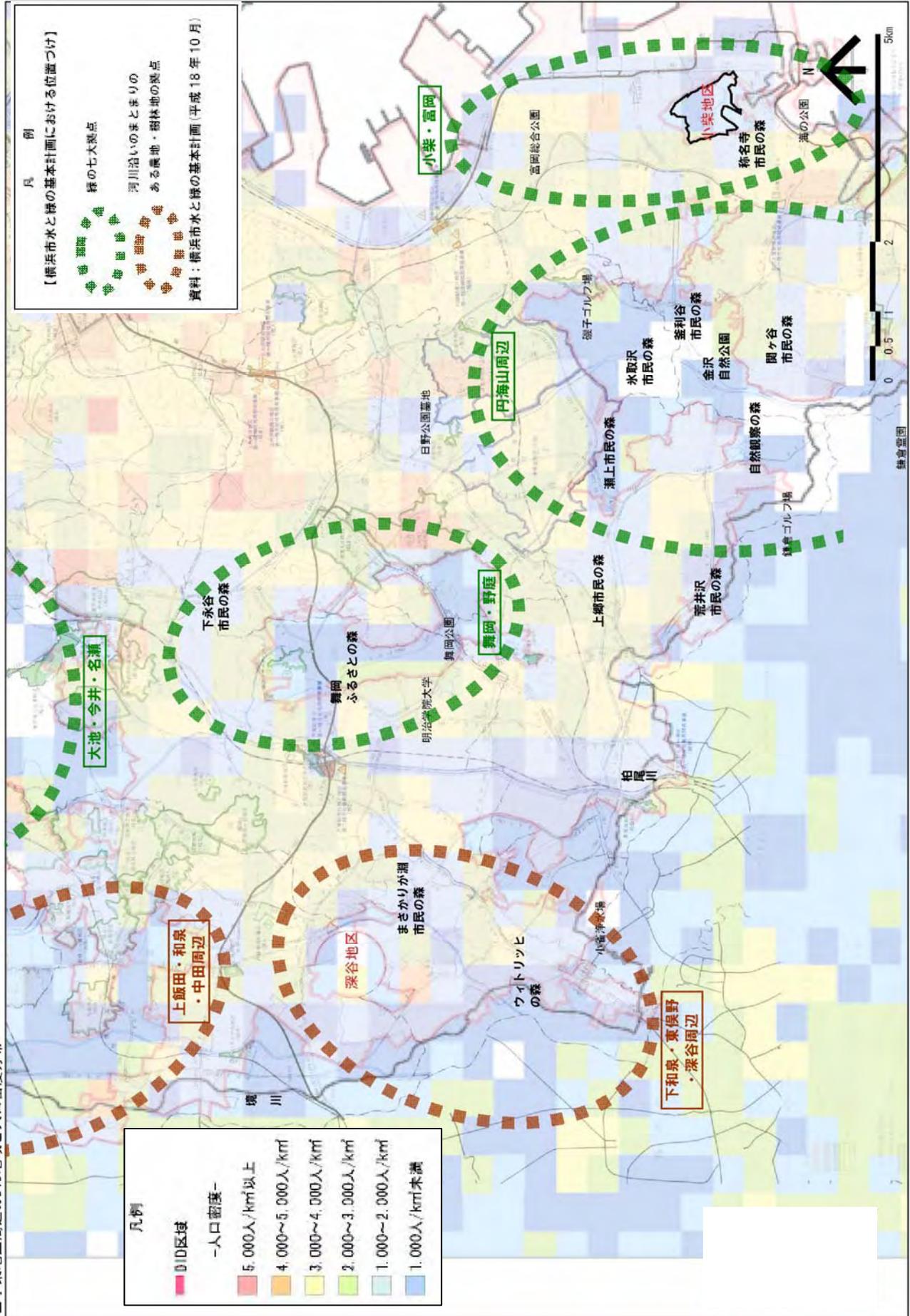


■小柴地区周辺アクセンシティ（鉄道・広域幹線道路）



■小柴地区周辺のDID地域と人口密度分布



2. 地区の状況から見た特性

(1) 地区の状況から見た特性 [⇒P65～68 参照]

■健康・レクリエーション等利用

- ・現状は全域囲障区域であり一般利用はなされていない
- ・周辺地域からの交通・アクセシビリティや市街地状況からみれば、今後のレクリエーション利用資源としては優良

■水・緑、オープンスペース

- ・かつて海に面していた立地特性や傾斜地が多い地形的特性にもより、海食崖や砂浜としての特性を残し、ハチジョウススキ等の海岸風衝地固有の植物が生育
- ・爆撃等により相当裸地化された時期もあったが、再生・復元しており、タブノキ林、落葉常緑の混生林が分布し、発達した森林として重要
- ・台地端部に位置し、水分条件は良好で、湧水・小川も見られる

■景 観

- ・比高 80m を有し、上部からは海浜部を俯瞰できる眺望が得られる
- ・崖線の樹林地は、周辺から緑のスカイラインとして視認され景観構成上重要な資源

■防 災

- ・本来、台地の端に位置する崖地であって水分条件は良い
- ・そのため、地区の雨水浸透率は、周辺地域が低い中で高い能力を有す

(2) 地区内（及び周辺）の特性等の状況



(3) 地形・植生等の状況

《地形地質状況》

- ・ 地形的には、砂泥互層であり、海食崖であるが、比較的地形的に柔らかい。
- ・ 本来、台地の端に位置する崖地であり、水分条件は良い。

《過去の植生状況》

- ・ かつて海に面していたため、東端は砂浜由来であり、現在の植生も、シバ群落としてその面影を残している。
- ・ かつてはコナラの雑木林であったことが推測される。空中写真のある戦後は、爆撃によるものと思われる植生変化のために、裸地化しており、その周辺にはコナラ雑木林と茅場と田畑が広がっている。
- ・ 潜在自然植生は崖地はイノデータブノキ群集、台上はヤブコウジースダジイ群集。シラカシ群集よりも温暖な気候に成立する植生。

《現在の植生状況》

◆海食崖と固有植物

・海蝕崖にはハチジョウススキ、オニヤブソテツ、ラセイタソウ、トベラ、ツルオオバマサキ、オオバグミ等、海岸風衝地固有の植物が生育。海食崖の地形とともに、かつての埋め立て以前の状態を物語る、貴重な自然。

◆発達したタブノキ林、常緑・落葉広葉樹混交林

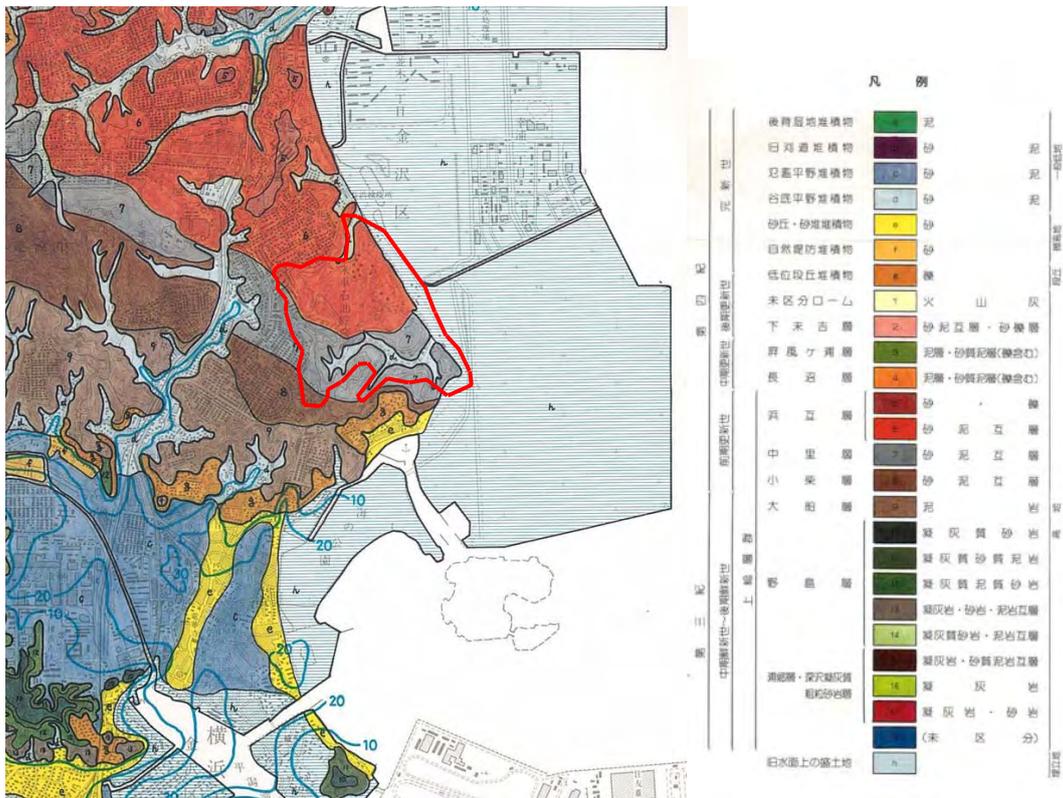
・海食崖上方斜面等に小面積ながらタブノキ林が、コナラ、エノキ等落葉樹とタブノキ、モチノキ、シロダモ、クスノキ等常緑樹の混生した広葉樹林が南部の頂部緩斜面から斜面上部にかけて分布し、本地区の自然林をしのばせる、発達した森林として重要。

◆典型的な雑木林

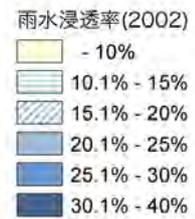
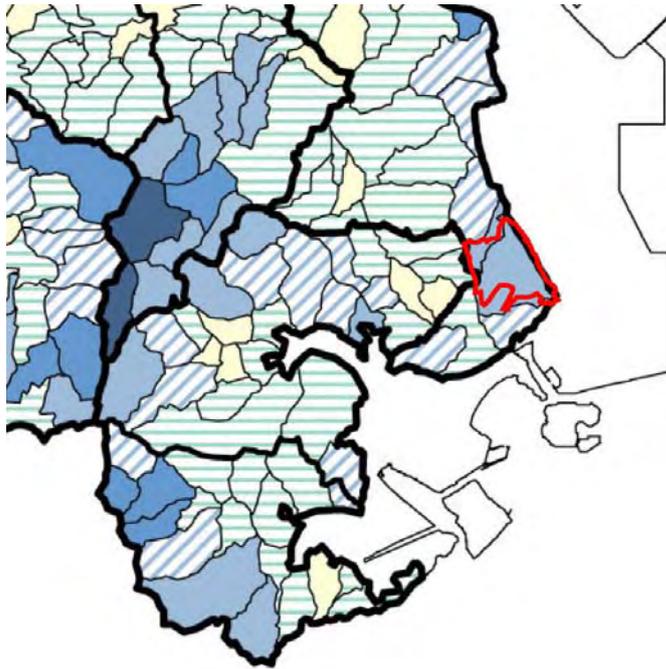
・地区西部の内陸側に残存するクヌギーコナラ林。本地区斜面の二次林はカラスザンショウ林とコナラ林に二分され、後者はかつての薪炭林経営を物語る雑木林であり、その中でも保存状態の良い林分として重要。

・一方で、地形的、植生的に、クズ、マダケ、メダケなどが侵入する恐れがあり、偏向遷移へと移行しないようにすることが課題となる。

《地形・地質区分図》

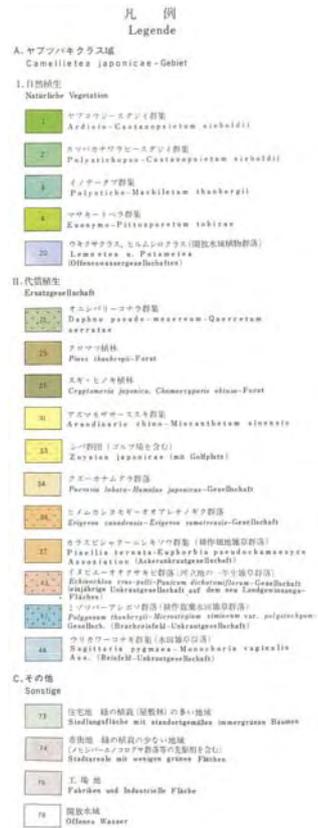
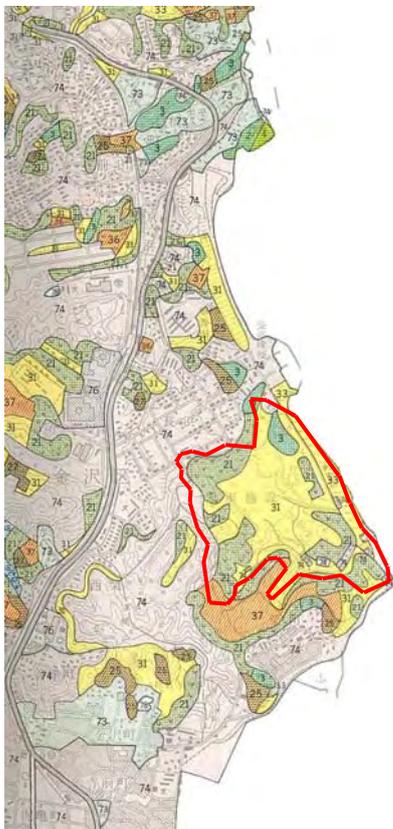


《雨水浸透率図》



(慶應義塾大学石川幹子研究室提供データ)

《1971 年植生図》



《植生の変遷：昭和21年2月15日撮影》



《植生の変遷：平成11年12月8日撮影（現況）》



3. 地区の水・緑等が果たしうる機能

価値分類	機能	価値の種類(例)	小柴地区における価値				
			現状	可能性			
利用 価値	直接 利用 価値	健康・レク	①健康促進		○	★	・現状は利用に供されていない ・今後は、 <u>当地区の有する良好な自然環境・ 景観特性を活用した自然とのふれあい活動 や学習・教育等の場としての利用ポテンシ ャルは非常に大</u>
		リエーショ	②心理的な潤いの提供		○		
		ン空間の 提供	③レクリエーションの場の提供		◎		
		④文化的活動の基礎		◎			
		⑤教育の場の提供		◎			
	間接 利用 価値	都市環境 維持・改善	①緑地の保存	◎	◎	★	・現状においても良好な自然環境機能を発揮 ・今後は、 <u>緑地としての整備・管理如何によ り、各種機能を増進しうるポテンシャルは大</u> ・特に、 <u>多様な植生環境の維持・増進による 生物多様性の高い緑地空間としての重要 性は大</u> ・一方、 <u>適切な環境管理による健全な生態系 育成の必要度は大</u>
			②動植物・昆虫の生育環境提供	◎	◎		
			③食料確保				
			④ヒートアイランド現象の緩和	○	○		
			⑤気候緩和	○	○		
			⑥二酸化炭素の吸収	○	○		
			⑦騒音軽減	○	○		
			⑧森林管理・保全、荒廃防止		◎		
		都市景観	①良好な景観の保全・提供	◎	◎	★	・現状で有する <u>景観資源及びパノラマ的な眺 望資源は今後とも貴重な資源</u> ・ <u>市街地の拡大防止・形態整序に寄与しうる</u> ・ <u>臨海工業地との緩衝緑地帯として重要 な機能を発揮</u>
			②都市形態規制	◎	◎		
		都市防災	①洪水調整	○	○	☆	・立地・敷地特性等から都市防災上の機能 の発揮度・重要度は高くない
			②地下水涵養	○	○		
			③災害応急対策施設の確保		○		
	④強固な地盤の提供						
	⑤火災延焼防止・遅延		○	○			
⑥防風・防潮機能	○		○				
⑦災害時の避難地確保			○				
⑧災害時の救援活動の場確保		○					
⑨復旧・復興の拠点確保		○					
オプション価値 (現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値)							
非 利用 価値	存在価値 (存在することを認識すること自体に喜びを見出す価値)				*		
	遺贈価値 (将来世代に残す(将来世代の利用を担保)することによって生じる価値)				*		

注: 価値分類体系は、「改訂大規模公園費用対効果マニュアル」(国土交通省、平成16年2月)における価値体系を使用

◎/★ : 特に重要な機能を有する ○/☆ : 重要な機能を有する */* : 何らかの機能を有する

効果波及圏域範囲 ■: 広域(マクロ) ■: 中位(メソ) ■: 地域(マイクロ)

4. 水・緑等の視点からの保全・活用の可能性

(1) 横浜市における位置づけと方向性

～ 森と海に抱かれた自然体験空間 ～

- 1 緑とオープンスペース、市民レクリエーション空間
- 2 魅力的な景観の保全
- 3 広域機能の立地

:「横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画(案)」(平成19年1月、横浜市)による

(2) 以上を踏まえた今後の方向性 (水・緑・レクの観点から)

① 良好な自然環境・景観資源を活用した公園緑地の整備の方向性

【活用例】

- * 回復しつつある多様な植生環境や海辺の眺望が得られる景観資源を生かした公園緑地整備
- * 市民が多様な自然体験や野外活動を行えるレクリエーション拠点
- * 海食崖を活かした海岸線推移、自然変化が体験できる自然教育拠点 等

② 周辺における水と緑のネットワークの展開・推進拠点としての方向性

【活用例】

- * 周辺の崖線緑地や人工干潟・汽水池を有する長浜公園等、旧海岸線に沿って連続する緑軸と相乗した、水と緑のネットワーク「拠点」の機能増強
- * 緑の担い手としての市民参加、市民育成ができる拠点づくり
- * 隣接の農地等の廃棄物や周辺市民の生ごみ等を活用したバイオガス拠点(貯油タンクの有効活用) 等

(3) 実現化に向けての展開の方向性 (検討課題)

A 良好な自然環境の実態調査と整備・管理の方策の検討

【展開例】

- * 多様な植生環境を基盤とした自然環境資源の実態を把握し、これを踏まえた適切な維持管理・整備のあり方を検討
- * かつての貯油施設としての土壌汚染調査の実施と必要に応じた土壌改善策の検討 等

B 効率的な維持・管理に向けての協働型の計画策定・推進プログラムの検討

【展開例】

- * 市民協働による効率的な公園緑地の整備・管理・運営方策の検討・実施
- * 担い手を継続的に育成・投入・できる体制・仕組みづくり
- * 市民協働から市民主体・主導への段階的市民の緑マネジメントによる実験拠点の検討 等

